

令和 7 年度（2025 年度）
市民意向調査

調査結果概要版

目 次

1. 調査の目的.....	1
2. 調査の内容.....	1
3. 調査の設計.....	1
4. 回収結果	1
5. 市民意向調査結果.....	2

1. 調査の目的

現行のまちづくりにおける施策に対する市民の評価や、コンパクトシティ・プラス・ネットワーク型の都市づくりに関する市民意向等を把握するため、アンケート調査方式による市民意向調査を実施した。

2. 調査の内容

- ◎立地適正化計画について
- ◎防災に関する考え・取り組みについて
- ◎磐田市のまちづくりについて
- ◎回答者属性について
- ◎自由意見

3. 調査の設計

対象者：市内に在住の市民

標本数：3,045 人（無作為抽出）

調査方法：郵送配布－郵送回答又はインターネット回答

調査期間：令和 7 年 12 月 15 日～令和 8 年 1 月 30 日

4. 回収結果

発送数	回収数	回収率
3,045 件	1,154 件 (郵送回答：792 件、インターネット回答：362 件)	37.9%

5. 市民意向調査結果

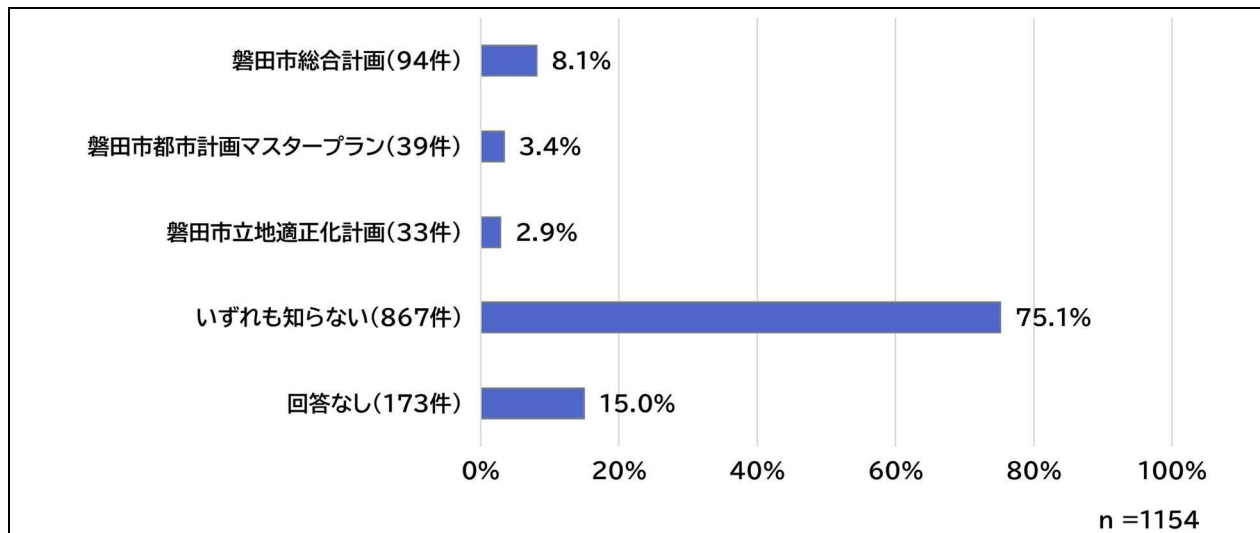
(1) 磐田市のまちづくりについて

問1 まちづくりに関する取り組みの認知度（あてはまるものすべて、n = 1154）

◎磐田市のまちづくりに関する取り組みについて、「いずれも知らない」が7割以上

■今回調査の結果

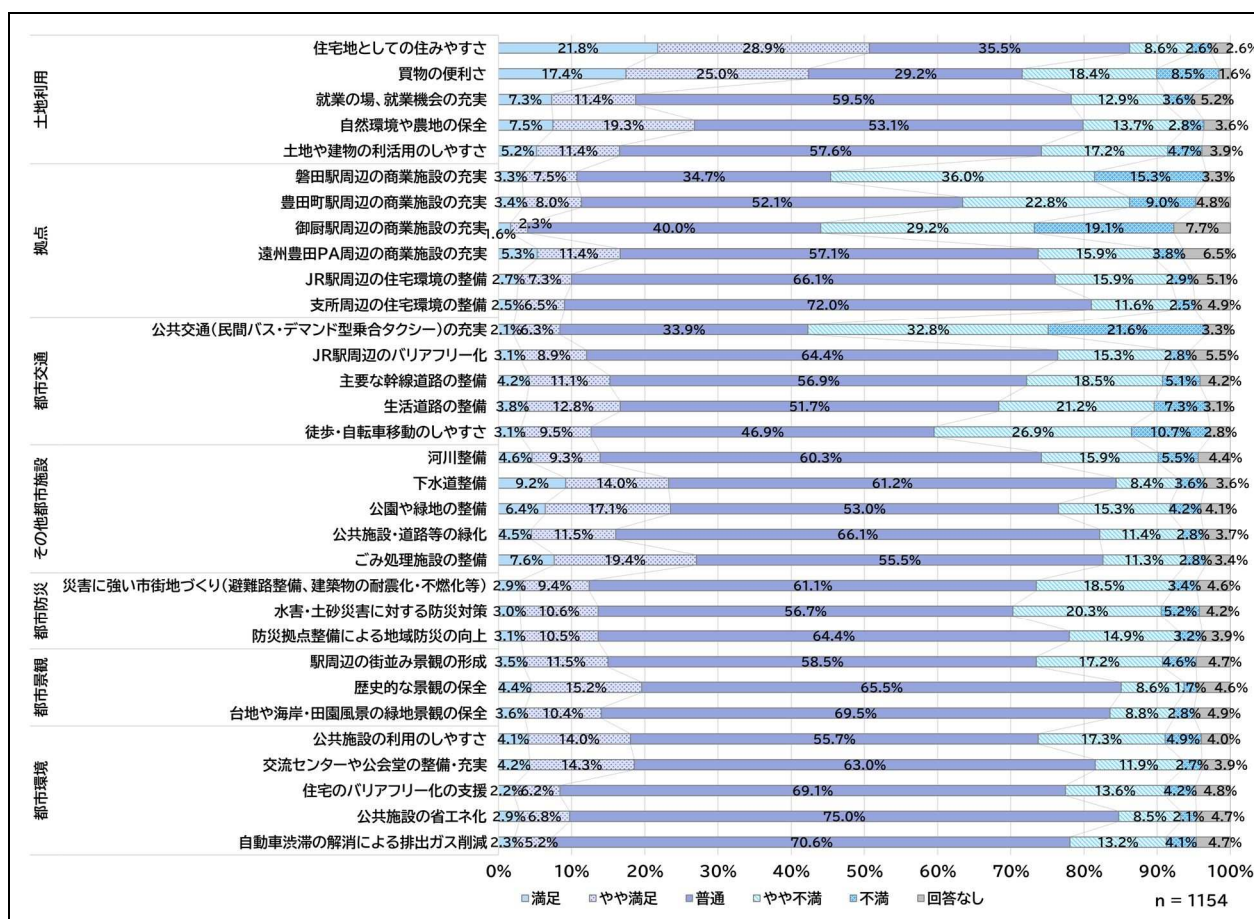
- ・「いずれも知らない」が75.1%と最も高く、まちづくりに関する計画においては、「磐田市総合計画」が8.1%と最も高くなっている。



問2 まちづくりに関する取り組みの満足度（最も近いものをそれぞれ1つ、n = 1154）

◎住宅地としての住みやすさ、買物の利便性等の満足度が高く、公共交通や駅周辺の商業施設の充実等は満足度が低い

- ・「満足」、「やや満足」の合計は、「住宅地としての住みやすさ」が50.7%と最も高く、次いで、「買物の便利さ」が42.4%、「ごみ処理施設の整備」が27.0%となっている。
- ・「不満」、「やや不満」の合計は、「公共交通（民間バス・デマンド型乗合タクシー）の充実」が54.4%と最も高く、次いで、「磐田駅周辺の商業施設の充実」が51.3%、「御厨駅周辺の商業施設の充実」が48.3%となっている。



■傾向

【居住地区別】

（磐田市全体と比較した割合の差をポイント（pt）として表記）

- 「住宅地としての住みやすさ」は、中泉・今之浦地区で、「満足」、「やや満足」の合計が64.8%（+14.1 pt）と最も高くなっている。
- 「買物の便利さ」は、豊田南部地区、中泉・今之浦地区で、「満足」、「やや満足」の合計がそれぞれ60.3%（+18.0 pt）、59.0%（+16.6pt）となっている。
また、岩田・大藤・向笠地区、豊岡地区で、「やや不満」、「不満」の合計がそれぞれ56.1%（+29.3 pt）、47.3%（+20.4 pt）となっている。
- 駅周辺の商業施設の充実について、
➤ 「磐田駅周辺の商業施設の充実」は、磐田駅周辺の中泉・今之浦地区で、「やや不満」、「不満」の合計が61.5%（+10.2 pt）と最も高くなっている。

- 「豊田町駅周辺の商業施設の充実」は、豊田町駅周辺の豊田南部地区で、「満足」、「やや満足」の合計が 30.2% (+18.8 pt) と最も高くなっているが、豊田北部地区では「やや不満」、「不満」の合計が 52.8% (+21.0 pt) と最も高くなっている。
- 「御厨駅周辺の商業施設の充実」は、御厨駅周辺の田原・御厨・西貝・南御厨地区で、「やや不満」、「不満」の合計が 78.6% (+30.4 pt) と最も高くなっている。
- 「公共交通（民間バス・デマンド型乗合タクシー）の充実」は、全ての地区で不満度が高い傾向にあるが、特に、豊田北部地区、竜洋地区で、「不満」がそれぞれ 30.6% (+9.0 pt)、30.0% (+8.4 pt) となっている。
- 「公園や緑地の整備」は、豊田南部地区、中泉・今之浦地区で、「満足」、「やや満足」の合計がそれぞれ 31.9% (+8.4 pt)、29.5% (+6.0 pt) と高くなっている。
また、豊岡地区、岩田・大藤・向笠地区で、「やや不満」、「不満」の合計がそれぞれ 32.4% (+13.0 pt)、31.6% (+12.2 pt) と高くなっている。
- 「災害に強い市街地づくり（避難路整備、建築物の耐震化・不燃化等）」は、福田地区で「やや不満」、「不満」の合計が 35.5% (+13.5 pt) と最も高くなっている。
- 「水害・土砂災害に対する防災対策」は、豊岡地区で、「やや不満」、「不満」の合計が 39.2% (+13.7 pt) と最も高くなっている。
- 「交流センターや公会堂の整備・充実」は、豊田南部地区で、「満足」、「やや満足」の合計が 29.3% (+10.8 pt) と最も高くなっている。

【居住実績別】

（「生まれた時から現在の住まいに住んでいる」と比較した割合の差をポイント（pt）として表記）

- 「住宅地としての住みやすさ」は、「市外から転入」、「市内で転居」で、「満足」、「やや満足」の合計がそれぞれ 51.9% (+7.9pt)、51.3% (+7.3pt) となっている。
- 「買物の便利さ」は、「市外から転入」、「市内で転居」で、「満足」、「やや満足」の合計がそれぞれ 43.9% (+7.1pt)、43.0% (+6.3pt) となっている。
- 「公園や緑地の整備」は、「市外から転入」、「市内で転居」で、「満足」、「やや満足」の合計がそれぞれ 20.0% (+8.3pt)、16.8% (+7.5pt) となっている。
- 「公共交通（民間バス・デマンド型乗合タクシー）の充実」は、「市外から転入」、「市内で転居」で、「やや不満」、「不満」の合計がそれぞれ 56.1% (+4.9pt)、54.8% (+3.5pt) となっている。
- 「駅周辺の街並み景観の形成」は、「市内で転居」、「市外から転入」で、「やや不満」、「不満」の合計がそれぞれ 22.5% (+3.8pt)、22.3% (+3.7pt) となっている。

【前回調査結果との比較】

（平成 27 年度の市民意向調査の調査結果と比較した割合の差をポイント（pt）として表記）

■ 磐田市全体

- 「住宅地としての住みやすさ」は、「満足」、「やや満足」の合計が 45.3%から 50.7% (+5.4pt) に増加している。
- 「買物の便利さ」は、「満足」、「やや満足」の合計が 36.9%から 42.4% (+5.5pt) に増加している。

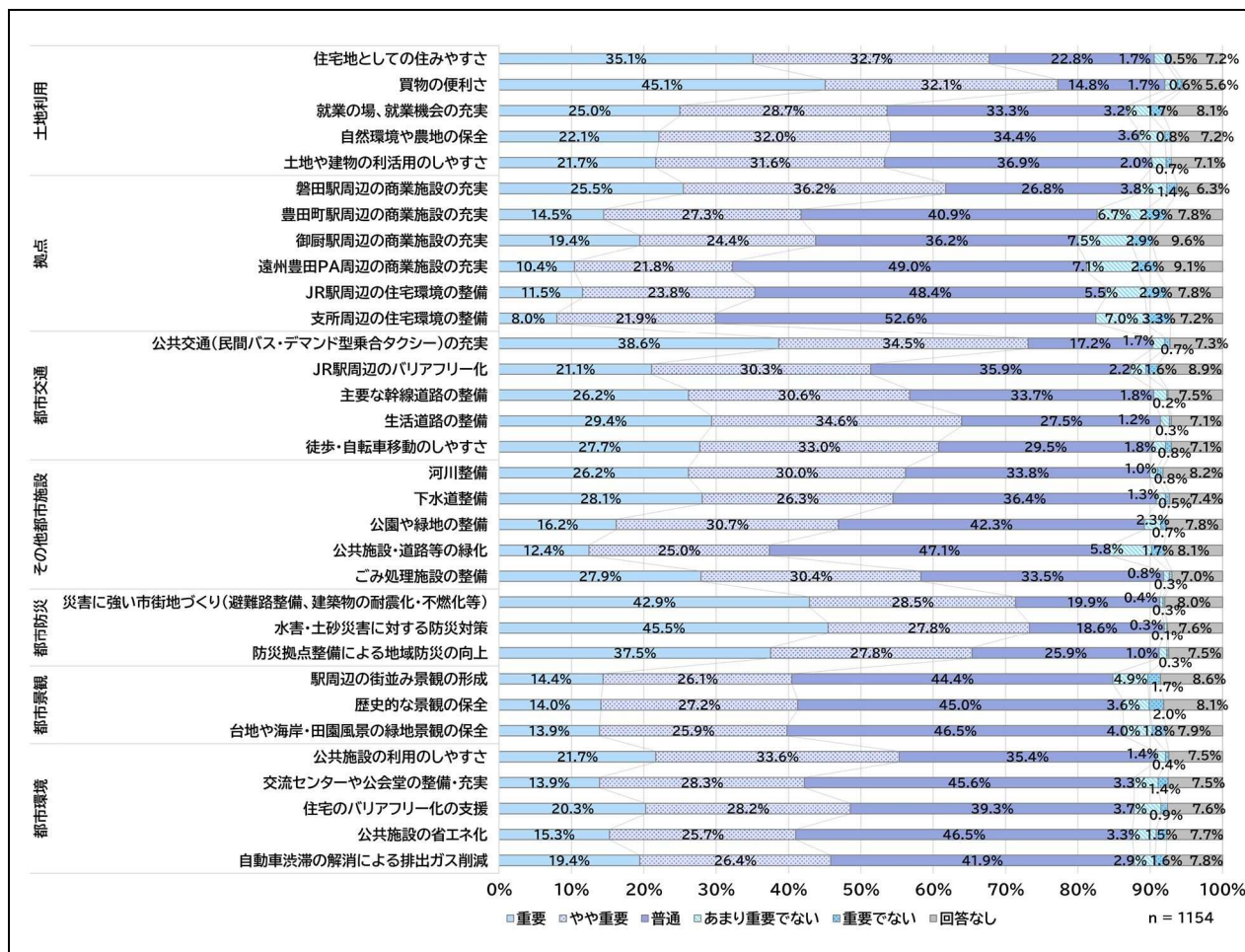
- 「災害に強い市街地づくり（避難路整備、建築物の耐震化・不燃化等）」は、「やや不満」、「不満」の合計が 34.1%から 21.9%（－12.1pt）に減少している。
- 「水害・土砂災害に対する防災対策」は、「やや不満」、「不満」の合計が 34.3%から 25.5%（－8.8pt）に減少している。
- 「公共交通（民間バス・デマンド型乗合タクシー）の充実」は、「やや不満」、「不満」の合計が 43.5%から 54.4%（＋10.9pt）に増加している。
- 居住地区別
 - 岩田・大藤・向笠地区では、「歴史的な景観の保全」の「満足」、「やや満足」の合計が他地区より高く、21.4%から 24.6%（＋3.2pt）に増加している。
 - 豊田北部地区では、「遠州豊田 PA 周辺の商業施設の充実」の「満足」、「やや満足」の合計が、6.5%から 30.6%（＋24.1pt）に増加している。
 - 見付地区では、「公園や緑地の整備」の「満足」、「やや満足」の合計が、15.4%から 27.7%（＋12.3pt）に増加している。
 - 中泉・今之浦地区では、「磐田駅周辺の商業施設の充実」の「満足」、「やや満足」の合計が、5.2%から 14.8%（＋9.6pt）に増加している。
 - 豊岡地区では、「買物の便利さ」の「不満」、「やや不満」の合計が 35.4%から 47.3%（＋11.9pt）に増加している。
 - 竜洋地区、福田地区では、「水害・土砂災害に対する防災対策」の「不満」、「やや不満」の合計が、それぞれ 46.0%から 25.8%（－20.2pt）、40.8%から 26.4%（－14.4pt）に減少している。

問3 まちづくりに関する取り組みの重要度（最も近いものをそれぞれ1つ、n = 1154）

◎買物の利便性、防災関連、公共交通の充実等の項目の重要度が高い

■今回調査の結果

- ・「重要」、「やや重要」の合計は、「買物の便利さ」が77.2%と最も高く、次いで、「水害・土砂災害に対する防災対策」が73.3%、「公共交通（民間バス・デマンド型乗合タクシー）の充実」が73.1%となっている。
- ・都市防災の全項目で、「重要」、「やや重要」の合計が60%を超えている。さらに、「重要でない」、「あまり重要でない」の合計が1%前後と非常に低くなっている。



■傾向

【居住地区別】

（磐田市全体と比較した割合の差をポイント（pt）として表記）

- 「土地や建物の利活用のしやすさ」は、中泉・今之浦地区で、「重要」、「やや重要」の合計が65.6%（+12.3 pt）と最も高くなっている。
- 駅・PA周辺の商業施設の充実について、
 - 「磐田駅周辺の商業施設の充実」では、磐田駅周辺の中泉・今之浦地区で、「重要」、「やや重要」の合計が76.2%（+14.5 pt）と最も高くなっている。
 - 「豊田町駅周辺の商業施設の充実」は、豊田町駅周辺の豊田南部地区、豊田北部地区で、「重要」、「やや重要」の合計がそれぞれ66.4%（+24.6pt）、58.3%（+16.6pt）となっている。

- 「御厨駅周辺の商業施設の充実」では、御厨駅周辺の田原・御厨・西貝・南御厨地区で、「重要」、「やや重要」の合計が 79.5%（+35.7pt）と最も高くなっている。
- 「JR 駅周辺の住宅環境の整備」は、中泉・今之浦地区で、「重要」、「やや重要」の合計が 46.7%（+11.4pt）と最も高くなっている。
- 「河川整備」は、豊岡地区で、「重要」、「やや重要」の合計が 74.3%（+18.2pt）と最も高くなっている。
- 「駅周辺の街並み景観の形成」は、中泉・今之浦地区で、「重要」、「やや重要」の合計が 58.2%（+17.7pt）と最も高くなっている。
- 「台地や海岸・田園風景の緑地景観の保全」は、岩田・大藤・向笠地区で、「重要」、「やや重要」の合計が 52.6%（+12.9pt）と最も高くなっている。

【居住実績別】

（「生まれた時から現在の住まいに住んでいる」と比較した割合の差をポイント（pt）として表記）

- 駅周辺の商業施設の充実について、
 - 「磐田駅周辺の商業施設の充実」は、「市内で転居」、「市外から転入」で、「重要」、「やや重要」の合計が 64.3%（+8.8pt）、61.6%（+6.2pt）となっている。
 - 「豊田町駅周辺の商業施設の充実」は、「市内で転居」、「市外から転入」で、「重要」、「やや重要」の合計が 45.3%（+9.7pt）、40.6%（+5.1pt）となっている。
 - 「御厨駅周辺の商業施設の充実」は、「市内で転居」で、「重要」、「やや重要」の合計が 49.8%（+8.8pt）となっている。
- 「JR 駅周辺の住宅環境の整備」は、「市内で転居」、「市外から転入」で、「重要」、「やや重要」の合計が 39.5%（+16.0pt）、35.9%（+12.4pt）となっている。
- 「支所周辺の住宅環境の整備」は、「市外から転入」、「市内で転居」で、「重要」、「やや重要」の合計が 31.7%（+8.2pt）、29.8%（+6.3pt）となっている。
- 「住宅のバリアフリー化の支援」は、「市内で転居」、「市外から転入」で、「重要」、「やや重要」の合計が 53.3%（+10.5pt）、47.7%（+4.9pt）となっている。

【前回調査結果との比較】

（平成 27 年度の市民意向調査の調査結果と比較した割合の差をポイント（pt）として表記）

- 磐田市全体
 - 「買物の便利さ」は、「重要」、「やや重要」の合計が 62.9%から 77.2%（+14.3pt）に増加している。
 - 「公共交通（民間バス・デマンド型乗合タクシー）の充実」は、「重要」、「やや重要」の合計が 60.3%から 73.1%（+12.8pt）に増加している。
- 居住地区別
 - 豊岡地区では、「河川整備」の、「重要」、「やや重要」の合計が 60.7%から 74.3%（+13.6pt）に増加している。
 - 豊田北部地区、豊田南部地区では、「水害・土砂災害に対する防災対策」の、「重要」、「やや重要」の合計がそれぞれ 74.9%から 80.6%（+5.7pt）、66.0%から 79.3%（+13.3pt）に増加している。

- 中泉・今之浦地区では、「磐田駅周辺の商業施設の充実」の、「重要」、「やや重要」の合計が 65.3%から 76.2%（+10.9pt）に増加している。
- 天竜・長野・於保地区（大泉町含む）では、「公共施設の利用のしやすさ」の、「重要」、「やや重要」の合計が 55.3%から 63.1%（+7.8pt）に増加している。

(参考) 地区別の優先的に取り組むべき項目

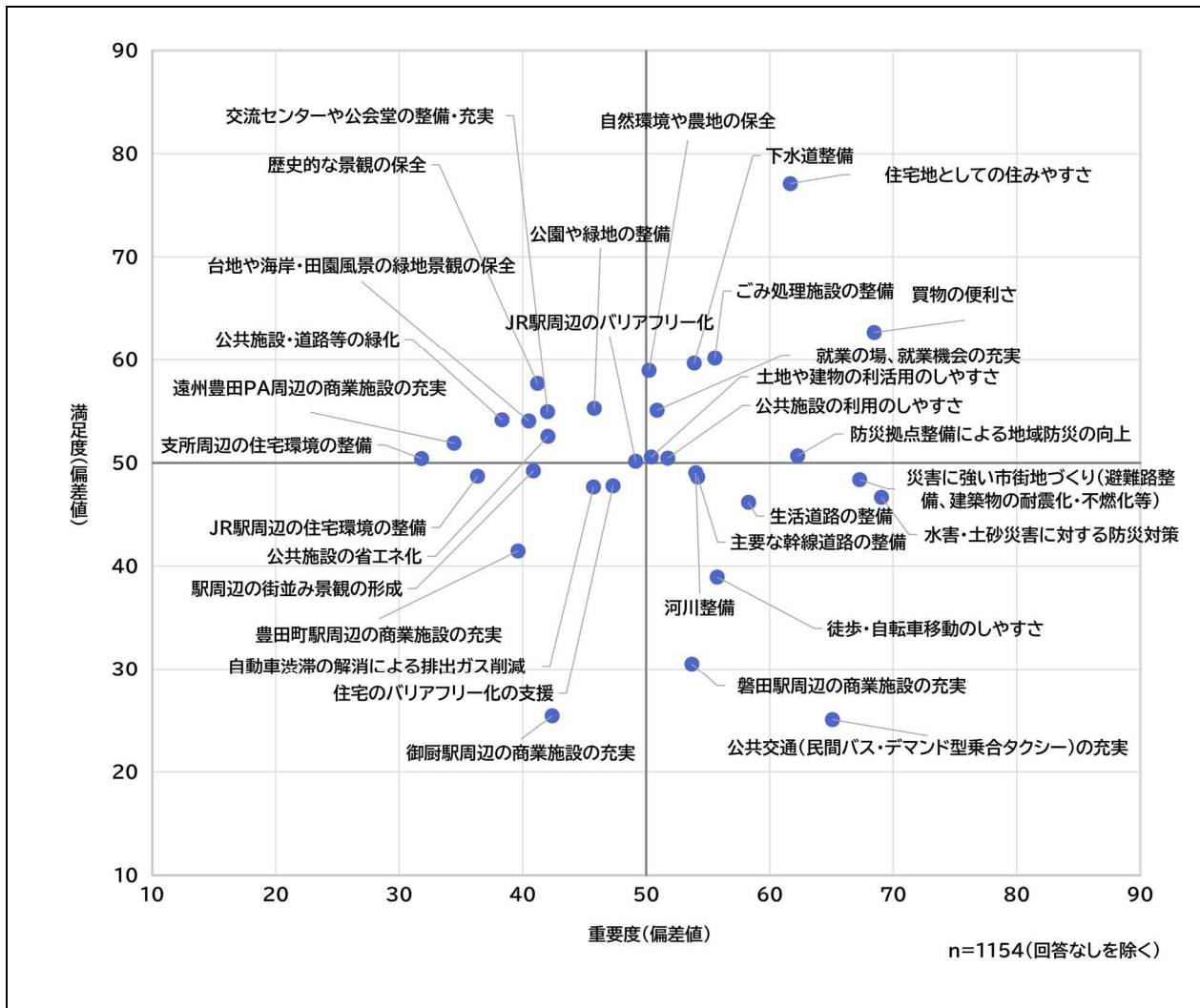
満足度・重要度の度合いを点数化し、各項目の平均値を偏差値とすることで、優先的に施策を展開すべき項目を相対的に評価した。

(「非常に満足(重要)」: 5点・「概ね満足(重要)」: 4点・「どちらでもない」: 3点・「やや不満(不要)」: 2点・「非常に不満(不要)」: 1点)

◎居住環境に関する項目は地域の強みとして維持、公共交通・防災に関する項目は改善が必要

■今回調査の結果

- ・「重要度が高く、満足度が高い」には、「住宅地としての住みやすさ」、「買物の便利さ」など居住環境に関する項目が含まれている。
- ・「重要度が高く、満足度が低い」には、「公共交通(民間バス・デマンド型乗合タクシー)の充実」、「徒歩・自転車移動のしやすさ」、「生活道路の整備」などの道路・交通に関する項目と、「災害に強い市街地づくり(避難路整備、建築物の耐震化・不燃化等)」、「水害・土砂災害に対する防災対策」など防災に関する項目が含まれている。



■傾 向

【磐田市全体】

「重要度が低く、満足度が高い」 現状維持が必要とされる項目	「重要度が高く、満足度が高い」 重点的に維持すべき地域の強みとなる項目
遠州豊田 PA 周辺の商業施設の充実、支所周辺の住宅環境の整備、JR 駅周辺のバリアフリー化、公園や緑地の整備、公共施設・道路等の緑化、歴史的な景観の保全、台地や海岸・田園風景の緑地景観の保全、交流センターや公会堂の整備・充実、公共施設の省エネ化	住宅地としての住みやすさ、買物の便利さ、就業の場、就業機会の充実、自然環境や農地の保全、土地や建物の利活用のしやすさ、下水道整備、ごみ処理施設の整備、防災拠点整備による地域防災の向上、公共施設の利用のしやすさ
「重要度が低く、満足度が低い」 改善が必要だが優先度は低い項目	「重要度が高く、満足度が低い」 改善が必要で優先度が高い項目
豊田町駅周辺の商業施設の充実、御厨駅周辺の商業施設の充実、JR 駅周辺の住宅環境の整備、駅周辺の街並み景観の形成、住宅のバリアフリー化の支援、自動車渋滞の解消による排出ガス削減	磐田駅周辺の商業施設の充実、公共交通（民間バス・デマンド型乗合タクシー）の充実、主要な幹線道路の整備、生活道路の整備、徒歩・自転車移動のしやすさ、河川整備、災害に強い市街地づくり（避難路整備、建築物の耐震化・不燃化等）、水害・土砂災害に対する防災対策

【居住地区別】

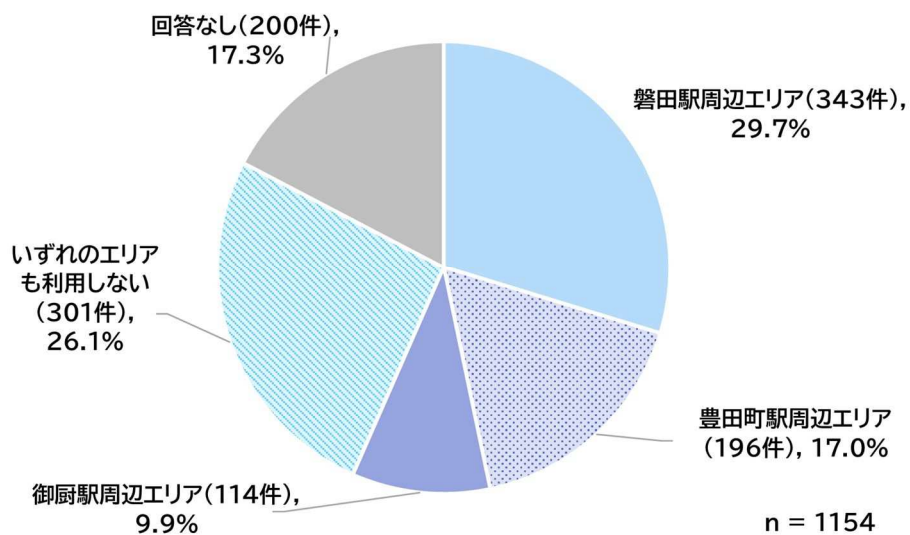
- 「買物の便利さ」は、磐田市全体で「重要度が高く、満足度が高い」に含まれるが、豊岡地区、岩田・大藤・向笠地区では「重要度が高く、満足度が低い」に含まれている。その他の地区は、磐田市全体と同様に「重要度が高く、満足度が高い」に含まれている。
- 「御厨駅周辺の商業施設の充実」は、磐田市全体で「重要度が低く、満足度が低い」に含まれるが、田原・御厨・西貝・南御厨地区、福田地区では「重要度が高く、満足度が低い」に含まれている。その他の地区は、磐田市全体と同様に「重要度が低く、満足度が低い」に含まれている。

問4 日常生活で利用するエリア（あてはまるものを1つ、n = 1154）

◎JR 駅周辺エリアを日常生活で利用する人が約6割

■今回調査の結果

- ・「磐田駅周辺エリア」が29.7%と最も高く、次いで、「いずれのエリアも利用しない」が26.1%、「豊田町駅周辺エリア」が17.0%、「御厨駅周辺エリア」が9.9%となっている。

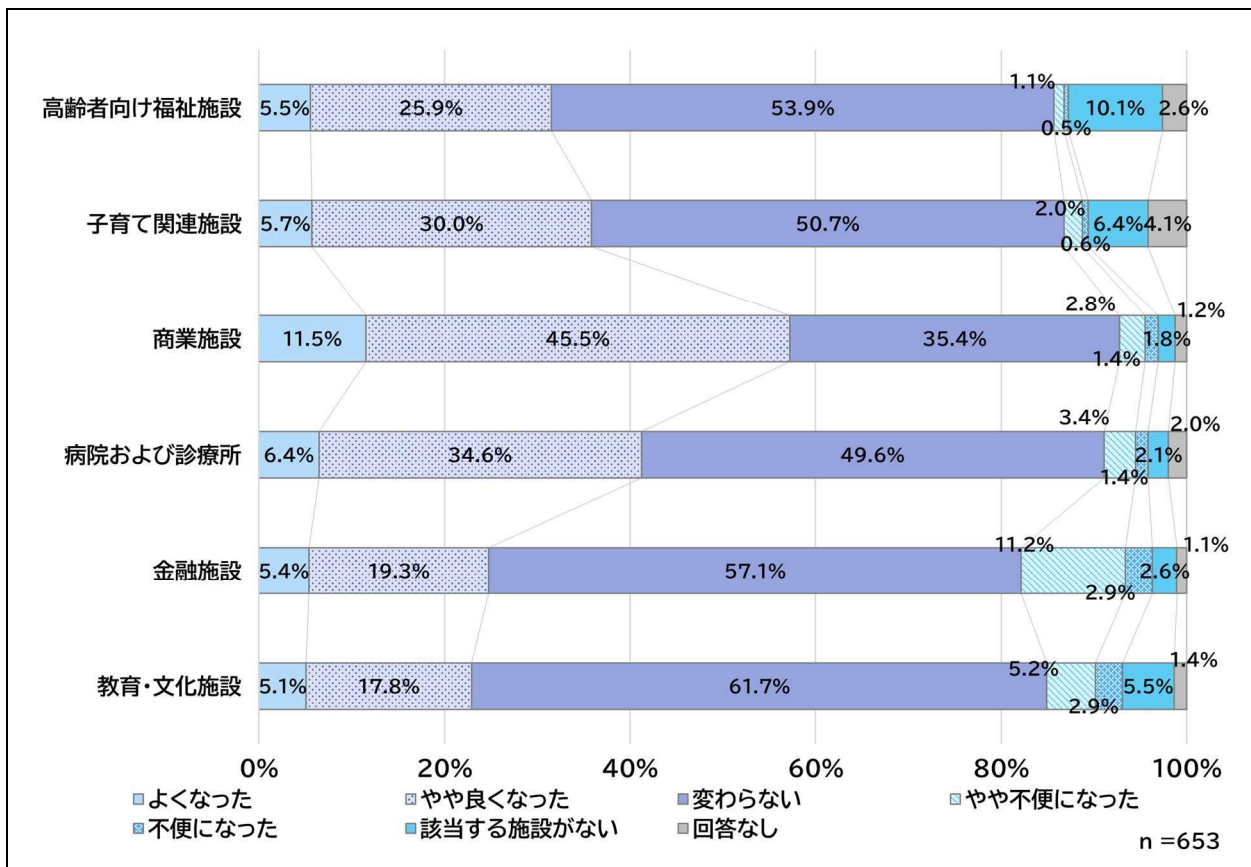


問5 施設の利用のしやすさの変化（あてはまるものを1つ、n = 653）

◎商業施設の利用のしやすさが「よくなった」・「やや良くなった」と回答した人が約6割

■今回調査の結果

・「よくなった」、「やや良くなった」の合計は、「商業施設」が57.0%と最も高くなっている。



■傾向

【居住エリア別】

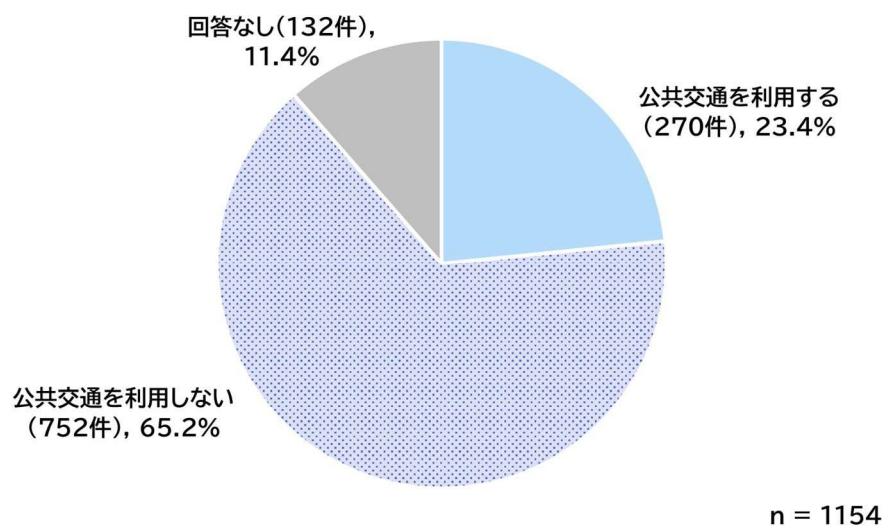
- 磐田駅周辺エリアは、「商業施設」、「病院および診療所」、「子育て関連施設」、「高齢者向け福祉施設」の「よくなった」、「やや良くなった」の合計が30%を超えており、それぞれ63.0%、44.0%、39.1%、37.0%となっている。
また、「金融施設」、「教育・文化施設」の「やや不便になった」、「不便になった」の合計がそれぞれ17.5%、11.1%となっている。
- 豊田町駅周辺エリアは、「商業施設」、「教育・文化施設」、「子育て関連施設」、「病院および診療所」、「金融施設」の「よくなった」、「やや良くなった」の合計が30%を超えており、それぞれ58.7%、36.2%、35.2%、33.7%、33.2%となっている。
- 御厨駅周辺エリアは、「病院および診療所」、「商業施設」の「よくなった」、「やや良くなった」の合計が30%を超えており、それぞれ47.4%、37.7%となっている。
また、「金融施設」の「やや不便になった」、「不便になった」の合計がそれぞれ14.9%となっている。

問6 公共交通の利用状況（あてはまるものを1つ、n = 1154）

◎公共交通を利用すると回答した人は約2割

■今回調査の結果

- ・「公共交通を利用しない」が65.2%、「公共交通を利用する」が23.4%となっている。

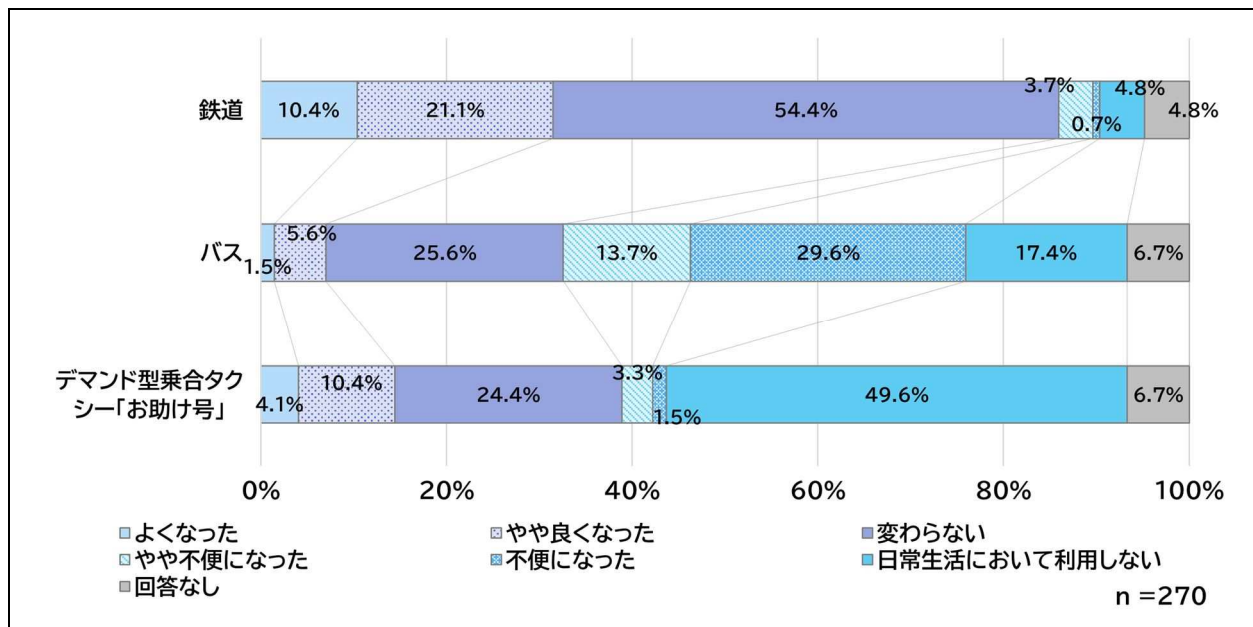


問7 公共交通の利用のしやすさの変化（あてはまるものすべて、n = 270）

◎鉄道は「よくなった」・「やや良くなった」と回答した人が約3割、バスは「やや不便になった」・「不便になった」と回答した人が約4割

■今回調査の結果

- ・鉄道は「よくなった」、「やや良くなった」の合計が31.5%となっている。
- ・バスは「やや不便になった」、「不便になった」の合計が43.3%となっている。
- ・デマンド型乗合タクシー「お助け号」は「日常生活において利用しない」が49.6%となっている。



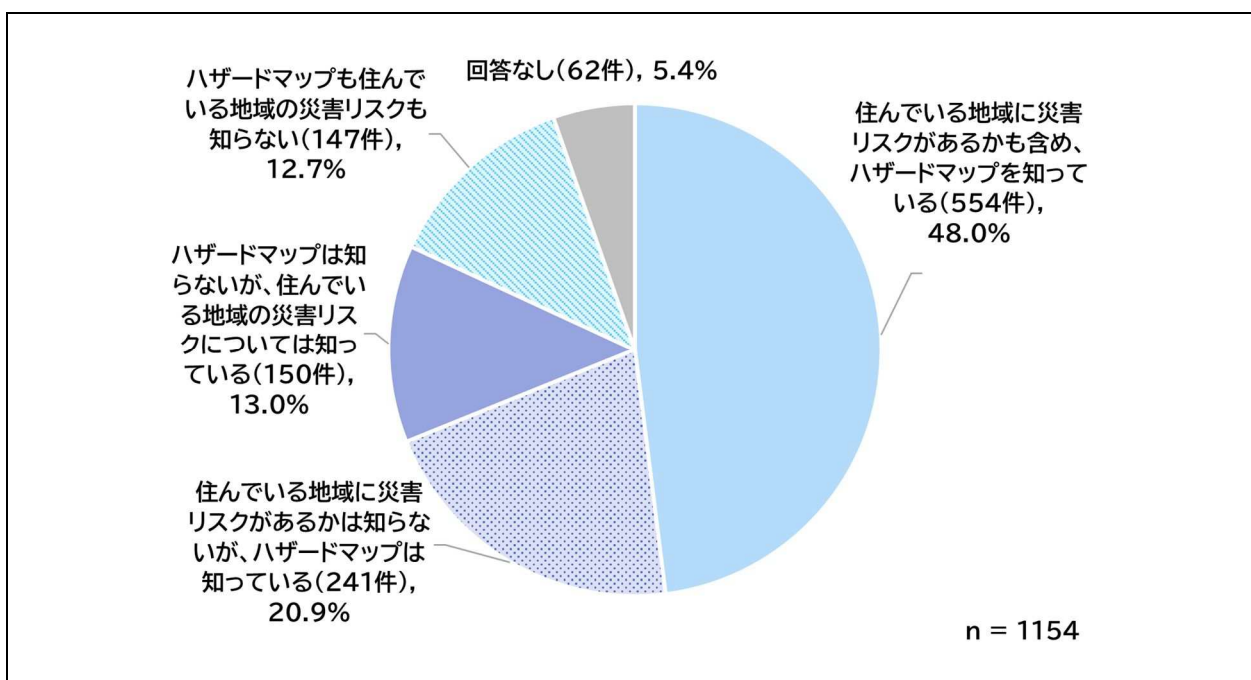
（２）防災に関する考え・取り組みについて

問１ 災害リスク、ハザードマップの認識度（あてはまるものを１つ、n = 1154）

◎居住地域の災害リスク含めハザードマップを知っている人は約５割

■今回調査の結果

- ・「住んでいる地域に災害リスクがあるかも含め、ハザードマップを知っている」が 48.0%と最も高く、次いで、「住んでいる地域に災害リスクがあるかは知らないが、ハザードマップは知っている」が 20.9%、「ハザードマップは知らないが、住んでいる地域の災害リスクについては知っている」が 13.0%、「ハザードマップも住んでいる地域の災害リスクも知らない」が 12.7%となっている。



■傾向

【居住地区別】

（磐田市全体と比較した割合の差をポイント（pt）として表記）

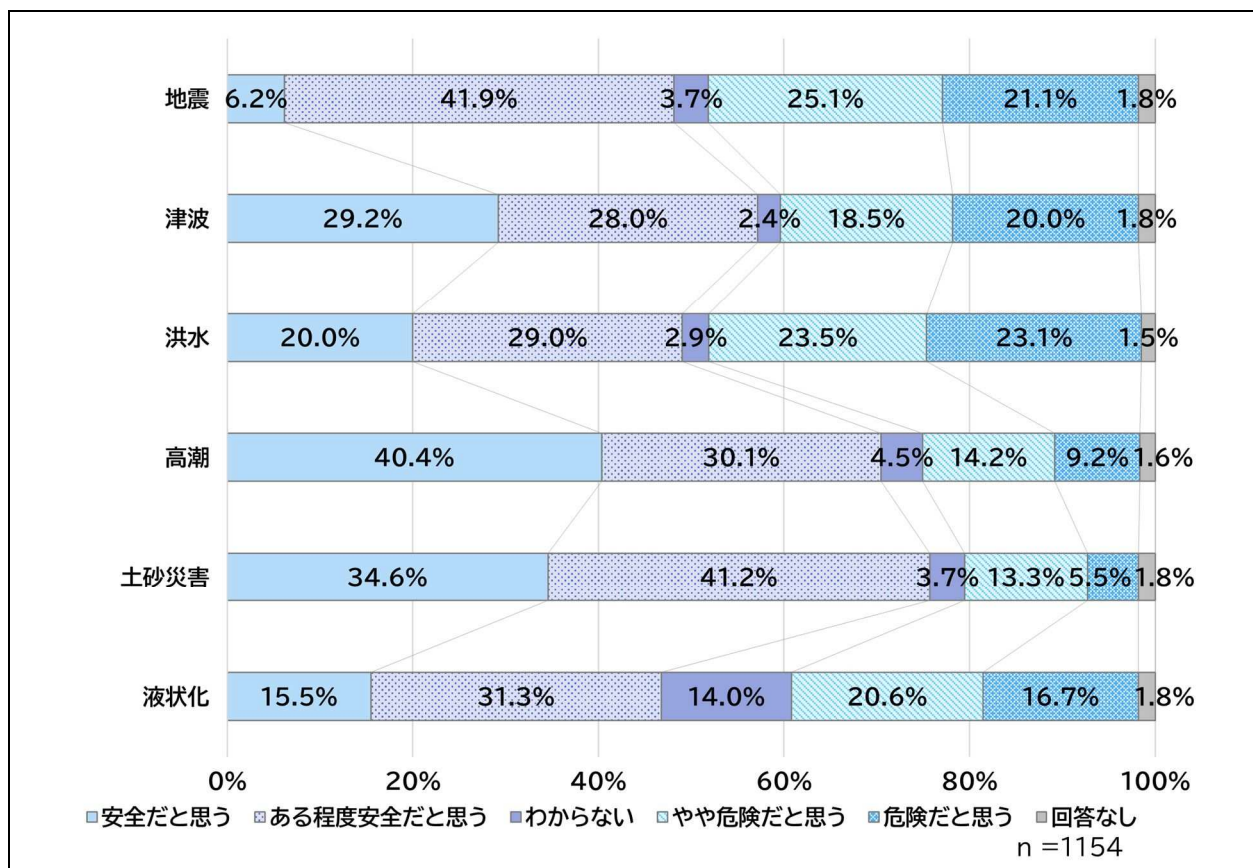
- 「住んでいる地域に災害リスクがあるかも含め、ハザードマップを知っている」と回答された割合は、岩田・大藤・向笠地区で 56.1%（+8.1pt）と最も高く、次いで、竜洋地区で 53.3%（+5.3pt）となっている。
- 「ハザードマップも住んでいる地域の災害リスクも知らない」と回答された割合は、田原・御厨・西貝・南御厨地区で 15.4%（+2.7pt）と最も高く、次いで、見付地区で 15.0%（+2.3pt）と高くなっている。

問2 災害リスクの認知度（あてはまるものを1つ、n = 1154）

◎洪水、地震の災害リスク認知度が高い

■今回調査の結果

- ・「安全だと思う」、「ある程度安全だと思う」の合計は、「土砂災害」が 75.8%と最も高く、次いで、「高潮」が 70.4%となっている。
- ・「危険だと思う」、「やや危険だと思う」の合計は、「洪水」が 46.6% と最も高く、次いで、「地震」 46.3%となっている。



■傾向

【居住地区別】

（磐田市全体と比較した割合の差をポイント（pt）として表記）

- 地震
 - 岩田・大藤・向笠地区で「安全だと思う」、「ある程度安全だと思う」の合計が 77.2%（+28.9pt）と高くなっている。
 - 福田地区で「やや危険だと思う」、「危険だと思う」の合計が 82.7%（+36.5pt）と最も高くなっている。
- 津波
 - 岩田・大藤・向笠地区で、「安全だと思う」、「ある程度安全だと思う」の合計が 91.2%（+34.0pt）と高くなっている。
 - 沿岸部の福田地区、竜洋地区で、「やや危険だと思う」、「危険だと思う」の合計がそれぞれ 91.8%（+53.3pt）、80.8%（+42.3pt）となっている。

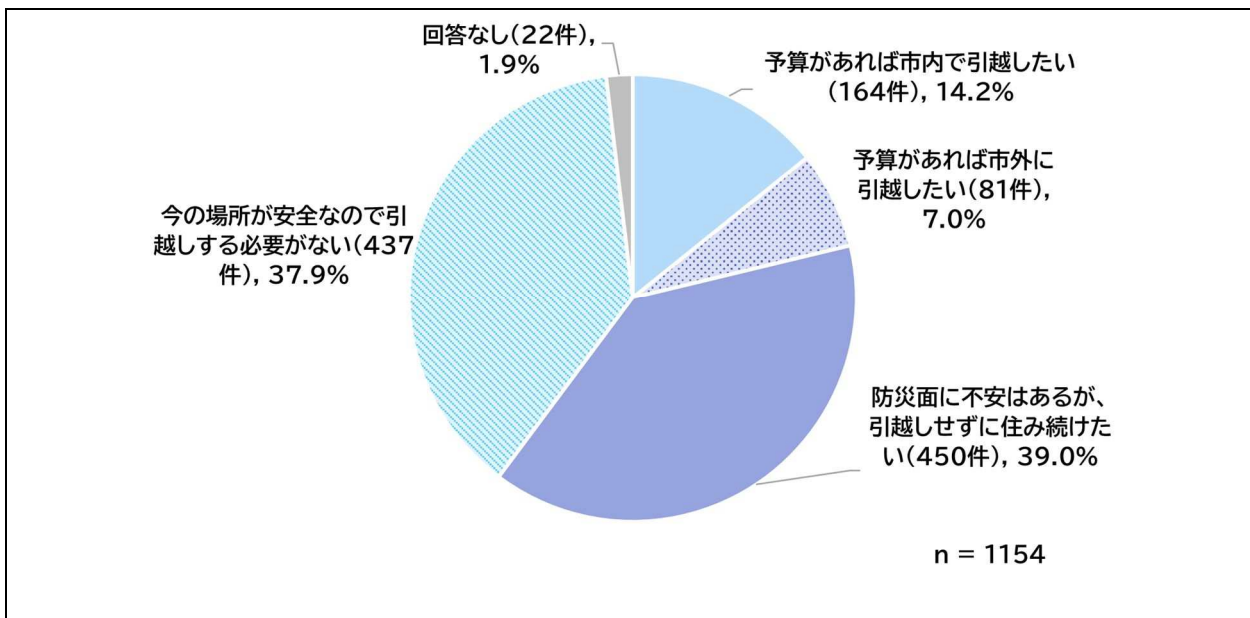
- 洪水
 - 岩田・大藤・向笠地区で、「安全だと思う」、「ある程度安全だと思う」の合計が **77.2%**（+28.1pt）と最も高くなっている。
 - 太田川下流域の福田地区、天竜川下流域の竜洋地区で、「やや危険だと思う」、「危険だと思う」の合計がそれぞれ **84.5%**（+37.9pt）、**72.5%**（+25.9pt）となっている。
- 高潮
 - 岩田・大藤・向笠地区で、「安全だと思う」、「ある程度安全だと思う」の合計が **94.7%**（+24.3pt）と最も高くなっている。
 - 沿岸部の福田地区、竜洋地区で、「やや危険だと思う」、「危険だと思う」の合計がそれぞれ **72.7%**（+49.3pt）、**53.3%**（+29.9pt）となっている。
- 土砂災害
 - 中山間地域が存在する豊岡地区で、「やや危険だと思う」、「危険だと思う」の合計がそれぞれ **51.4%**（+32.6pt）と最も高くなっている。
- 液状化
 - 岩田・大藤・向笠地区で、「安全だと思う」、「ある程度安全だと思う」の合計が **71.9%**（+4.9pt）と最も高くなっている。
 - 福田地区で、「やや危険だと思う」、「危険だと思う」の合計が **70.0%**（+46.2pt）と最も高くなっている。

問3 防災面を考慮した転居意向（あてはまるものを1つ、n = 1154）

◎ 7割以上の人が居住継続の意向がある

■ 今回調査の結果

- ・「防災面に不安はあるが、引越しせずに住みたい」が39.0%と最も高く、次いで、「今の場所が安全なので引越しする必要がある」が37.9%となっている。



■ 傾 向

【居住地区別】

（磐田市全体と比較した割合の差をポイント（pt）として表記）

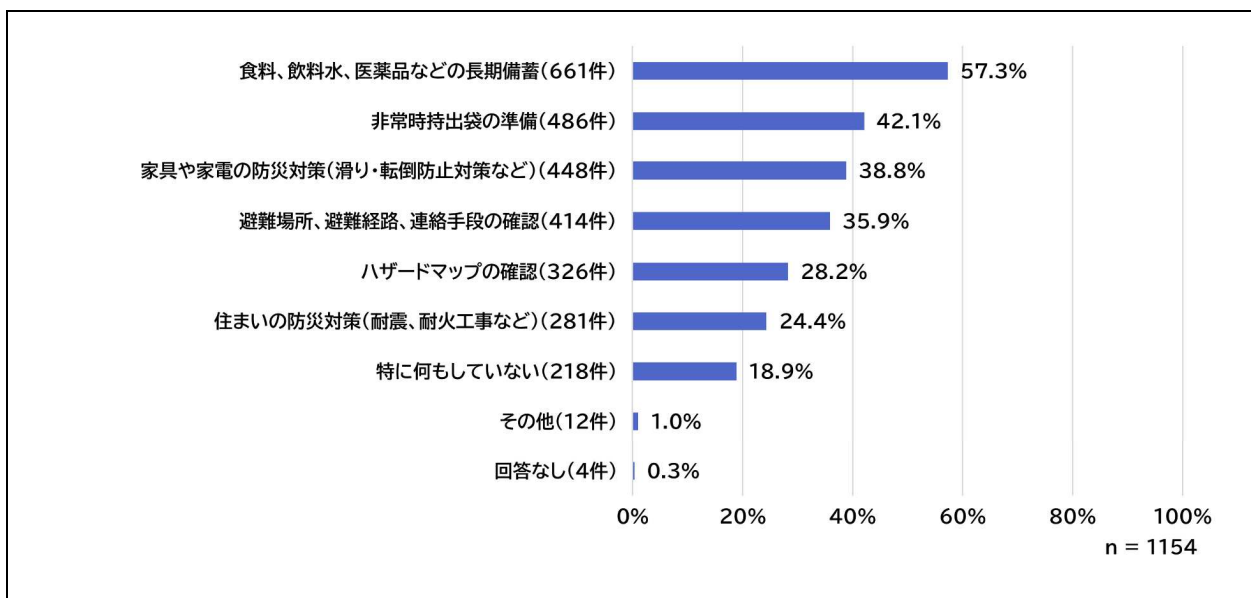
- 「予算があれば市内で引越したい」と回答された割合は、天竜・長野・於保地区（大泉町含む）で23.8%（+9.6pt）と最も高く、次いで、福田地区で20.9%（+6.7pt）となっている。
- 「防災面に不安はあるが、引越しせずに住みたい」と回答された割合は、福田地区で59.1%（+20.1pt）と最も高く、次いで、竜洋地区で55.0%（+16.0pt）となっている。
- 「今の場所が安全なので引越しする必要がある」と回答された割合は、岩田・大藤・向笠地区で70.2%（+32.3pt）と最も高く、次いで、見付地区で60.7%（+22.8pt）となっている。

問 4 災害に対する備えの状況（あてはまるものすべて、n = 1154）

◎災害に対する備えとして、約6割の人が「食料、飲料水、医薬品などの長期備蓄」と回答

■今回調査の結果

- ・「食料、飲料水、医薬品などの長期備蓄」が 57.3%と最も高くなっている。次いで、「非常時持出袋の準備」が 42.1%、「家具や家電の防災対策（滑り・転倒防止対策など）」が 38.8%となっている。



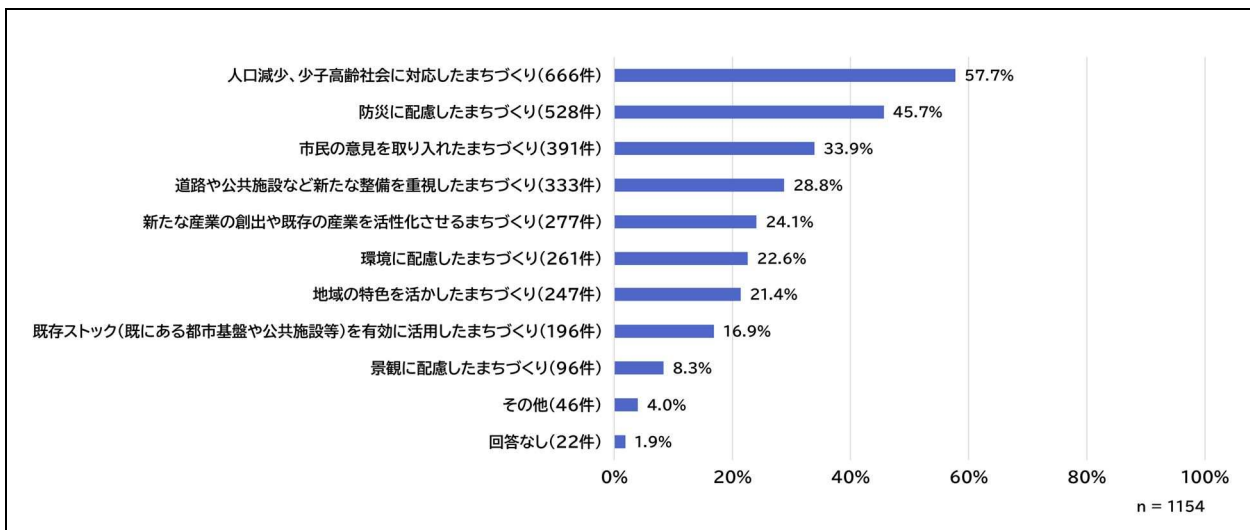
(3) 今後のまちづくりについて

問1 今後のまちづくりで重要視している項目（あてはまるものを3つまで、n = 1154）

◎「人口減少、少子高齢社会に対応したまちづくり」と回答した人が約6割

■今回調査の結果

- ・「人口減少、少子高齢社会に対応したまちづくり」が57.7%と最も高く、次いで、「防災に配慮したまちづくり」が45.7%、「市民の意見を取り入れたまちづくり」が33.9%となっている。



■傾向

【居住実績別】

（「生まれた時から現在の住まいに住んでいる」と比較した割合の差をポイント（pt）として表記）

- 「人口減少、少子高齢社会に対応したまちづくり」と回答された割合は、全ての属性で55%以上となっている。
- 「防災に配慮したまちづくり」と回答された割合は、「市外から転入」で48.5%（+6.3pt）、「市内で転居」で46.5%（+4.3pt）となっている。
- 「景観に配慮したまちづくり」と回答された割合は、「市内で転居」で18.5%（+4.0pt）、「市外から転入」で16.2%（+1.8pt）となっている。
- 「市民の意見を取り入れたまちづくり」と回答された割合は、「市内で転居」で20.8%（－8.8pt）「市外から転入」で21.2%（－8.3pt）となっている。
- 「新たな産業の創出や既存の産業を活性化させるまちづくり」と回答された割合は、「市外から転入」で19.3%（－4.8pt）となっている。

【前回調査結果との比較】

（平成27年度の市民意向調査の調査結果と比較した割合の差をポイント（pt）として表記）

- 「道路や公共施設など新たな整備を重視したまちづくり」、「人口減少、少子高齢社会に対応したまちづくり」、「地域の特色を活かしたまちづくり」と回答された割合は、それぞれ18.2%から28.8%（+10.6pt）、52.6%から57.7%（+5.1pt）、17.4%から21.4%（+4.0pt）に増加している。
- 「防災に配慮したまちづくり」、「既存ストック（既にある都市基盤や公共施設等）を有効

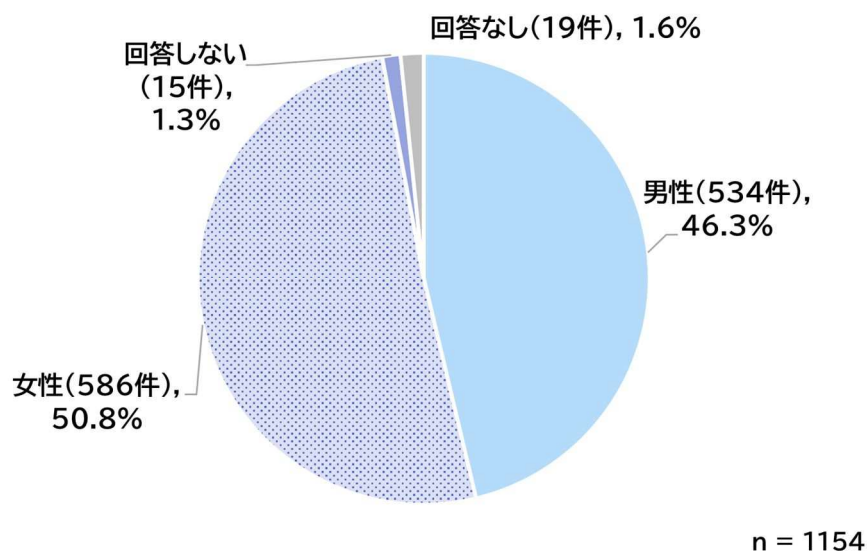
に活用したまちづくり」と回答された割合は、それぞれ 58.1%から 45.7%（－12.4pt）、24.1%から 16.9%（－7.2pt）に減少している。

(4) 回答者属性について

問1 回答者の性別（あてはまるものを1つ、n = 1154）

■ 今回調査の結果

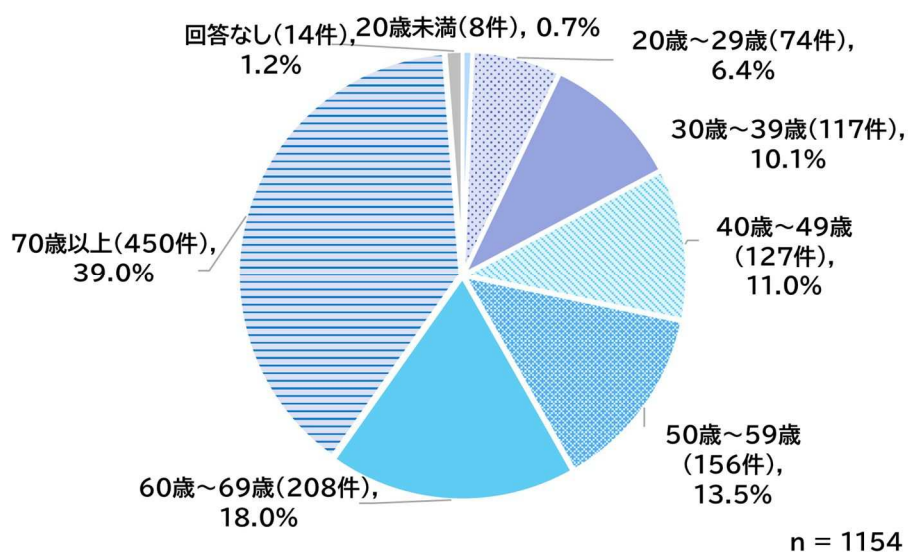
- ・「女性」が 50.7%、「男性」が 46.3%、「回答しない」が 1.3%となっている。



問2 回答者の年齢（あてはまるものを1つ、n = 1154）

■ 今回調査の結果

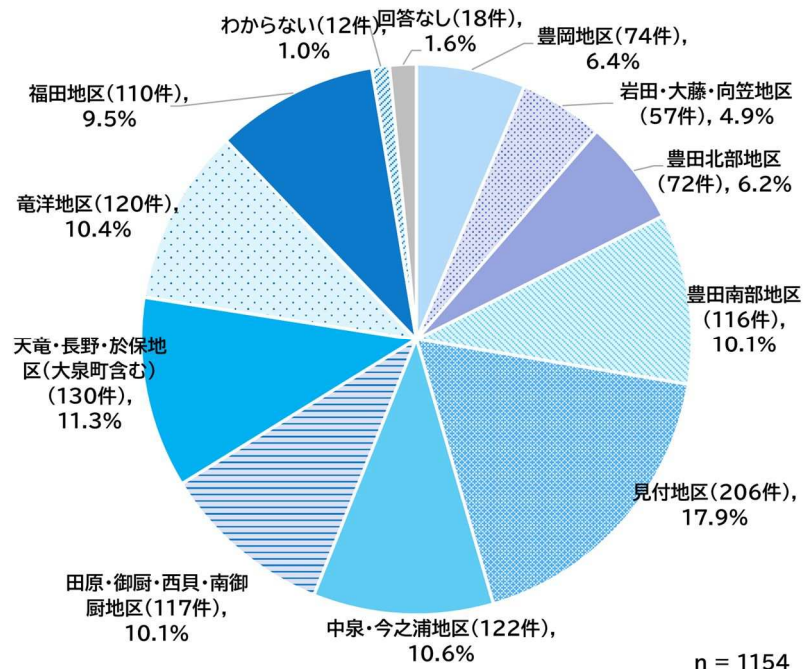
- ・「70 歳以上」が 39.0%と最も高くなっている。次いで、「60 歳～69 歳」が 18.0%、「50 歳～59 歳」が 13.5%となっている。



問3 回答者の居住地区（あてはまるものを1つ、n = 1154）

■ 今回調査の結果

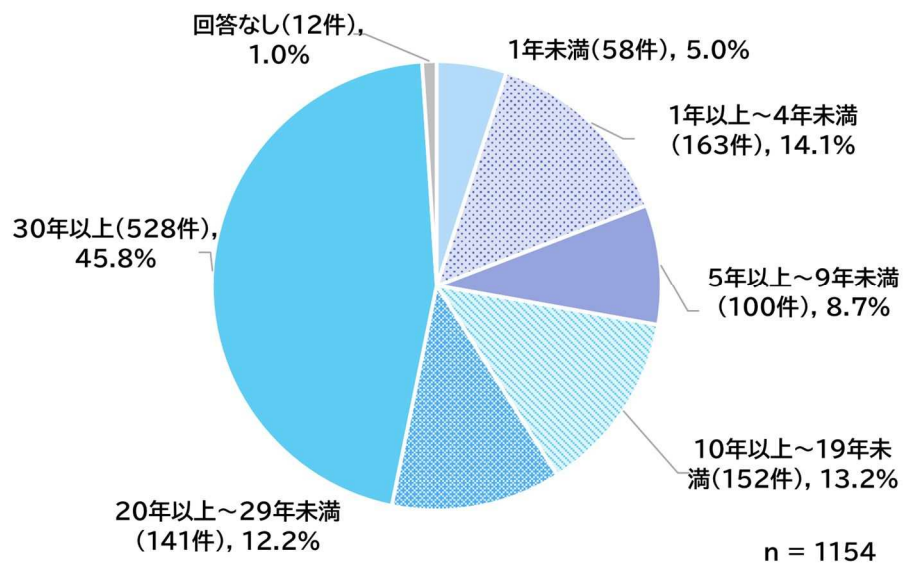
- ・「見付地区」が17.9%と最も高くなっている。次いで、「天竜・長野・於保地区（大泉町含む）」が10.6%、「竜洋地区」が10.4%となっている。



問4 回答者の居住年数（あてはまるものを1つ、n = 1154）

■ 今回調査の結果

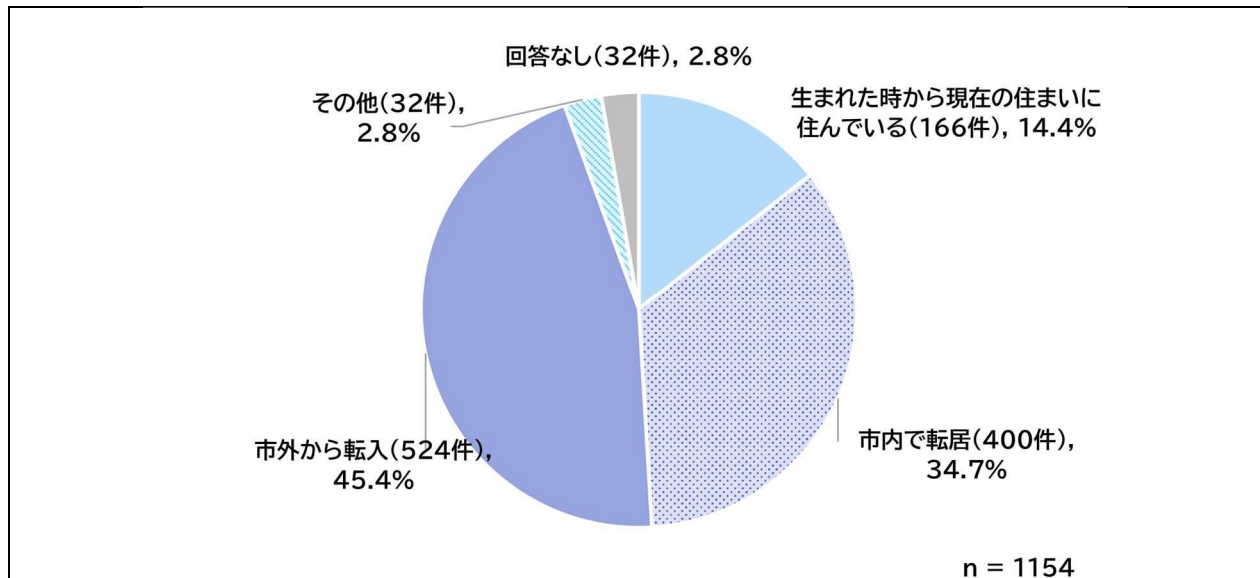
- ・「30年以上」が45.8%と最も高くなっている。次いで、「1年以上～4年」が14.1%、「10年～19年」が13.2%となっている。



問5 回答者の転居実績（あてはまるものを1つ、n = 1154）

■今回調査の結果

- ・「市外から転入」が45.4%と最も高くなっている。次いで、「市内で転居」が34.7%、「生まれた時から現在の住まいに住んでいる」が14.3%となっている。



問6 回答者の転居理由（あてはまるものすべて、n = 1154）

■今回調査の結果

- ・「持ち家購入」が35.7%と最も多く、次いで、「結婚」が21.9%、「就職・転職」が12.7%となっている。

